

句・文を前接成分とする「X系/派/流」についての考察

(要旨)

連青

接辞性字音形態素は普通、形態素ないし語を対象とする語彙的な接辞要素として語構成に与る(例:癒し系、ねこ派、西洋流)。しかし、「系」「派」「流」は直接的に語レベルを超えた単位に後接し、それらを取り組み一つの単位体を形成することが屢々見られる。以下はその例である。

- (1) シックで都会的な無彩色のコーディネートに合わせて色気を増幅させるのが、「いい男」流なのです。さばくポイント妖艶な色目だからこそシックに妖艶な色こそ、コーディネートはブレーキをきかせるのが節度ある「いい男」。(『Men's Ex』2004年10月号より)
- (2) 浅葱「龍は自分からどんどん友達を作る派、翔は一人でいてもどんどん絡まれる派です。対照的」(Yahoo!ブログより)
- (3) こんな田舎の幼稚園でもモンスターペアレントが出現するんでしょうか。「うちの子が一番じゃないと困るんです！」系? といえば今、幼稚園の学芸会では全員主演。(Yahoo!ブログより)

例(1)の下線部は名詞句「いい男」を前接成分とする「X流」の用例である。例(2)の下線部は述語句「自分からどんどん友達を作る」「一人でいてもどんどん絡まれる」を前接成分とする「X派」の用例である。例(3)の下線部は文相当の要素「うちの子が一番じゃないと困るんです!」を前接成分とする「X系」の用例である。本稿ではこのような、句・文を前接成分とする「X系/派/流」を取り上げ、その諸特徴を記述する。

先行研究では、字音形態素が句や文に直接接続する形式は通常の語形成規則に当てはまらないものと捉えられるが、これまで周知的な問題として

十分に議論が行われてこなかった。山下(2015)では、「老後の田舎暮らしの準備派」「しっかり食べたい派」「一人がさびしいから頑張って彼女探してます系」のように、前接成分が句や文の「X系/派」はある人物をその人の思想内容や状態等を参照点として表し、その全体が接尾辞によって名詞相当の言語単位となっていることは変わらないと述べている。しかし、こういう新奇な形式はなぜ多用されているのか、さらに、なぜ形成可能なかについては先行研究では取り上げられていない。

本稿では、BCCWJとNWJCコーパスから抽出された事例に基づき、句や文を前接成分とする「X系/派/流」のあり方と実用を分析する。その上で、こういう非標準的な単位はどのように捉えるかについて考察し、特に(3)の下線部のような、前接成分が文相当の要素である「X系/派/流」の成立を支える仕組みの考察を試みる。

その結果、句や文を前接成分とする「X系/派/流」には、①「命名用法」(あるモノを何らかの категорияに位置付け、前接成分が表す概念でそのモノが持つ何らかの特徴を端的に提示する)、②「婉曲用法」(個別のモノを指示するときに用いられ、その背景に同類の集団が存在することを暗示する)という2つの表現効果がある。また、このような新用法はなぜインターネットで多用されているかという、ブログ等の言語活動場面の特徴と若者に代表される使用者の心理に沿い、句や文を前接成分に取り入れて語彙化を行うからである。さらに、句・文を前接成分とする「X系/派/流」はインターネット上で臨時的にでき、作文されたその一つのテキストしか一語性を保たない非標準的な合成語に位置づけられ、対象に対してラベリングを行うことが明らかになっている。